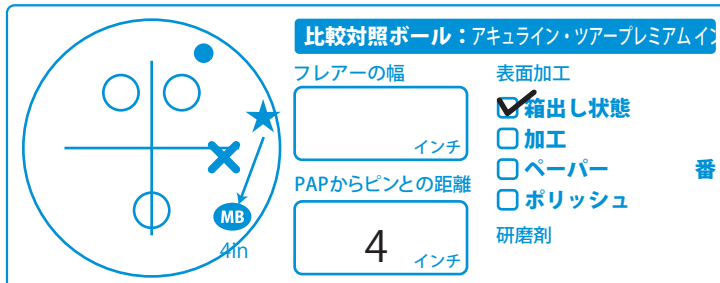
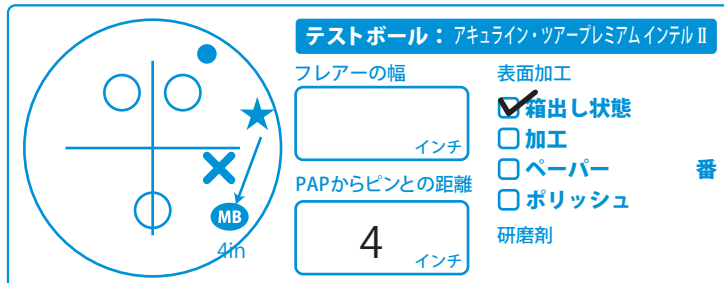


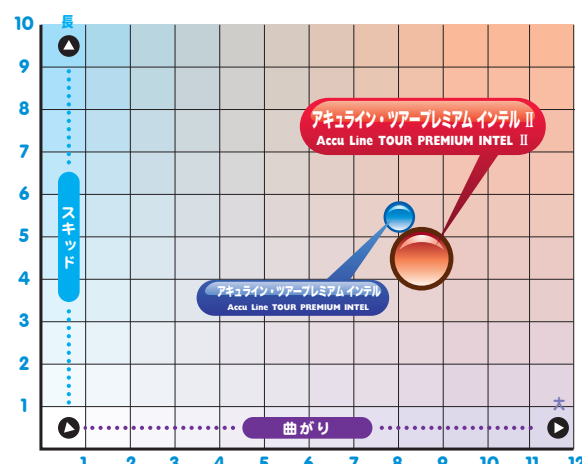
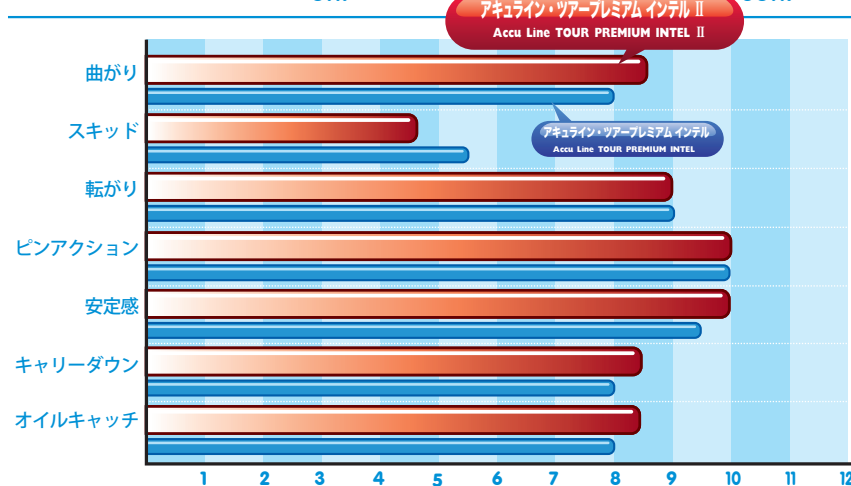
ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 アキュライン・ツアープレミアム インテル II	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.523	△RG 0.040	● ピン ★ PAP ✕ CG ■ バランスホール



ヘビー
ミディアム
ライト
バフ



ボールの評価

前作は、ツアープレミアムシリーズの中でも特に“扱いやすさ”と“直進力”に焦点を当てたモデルで、その完成度の高さは多くのボウラーから支持を受け、ミディアムコンディションを中心に高い安定感を発揮してくれました。その設計思想を継承しながら、さらなる高みを目指して誕生したのが、今作の ツアープレミアム インテル 2 です。

最大の進化は、カバー素材をこれまでのNano-Thaneから、ツアープレミアム8で実績をあげたNano-Bondへと刷新した点にあります。日本国内で精密に調整されたNano-Bondは、その名の通り、分子レベルでの結合力を高めた“粘着系の高反応素材”。その性能は「粘って曲がる」というナノデス特有の挙動をさらに際立たせ、ミッドレーンでの確実なキャッチ、そしてピン前での鋭く力強い押し込みへとつながっています。Nano-Bondのもたらす“粘りあるグリップ感”は、特に変化の激しいレーンコンディションや濃淡と段差ができたときに効果を発揮します。オイルに敏感すぎず、それでいてドライゾーンに対してはしっかりと反応し、ラインを外しても許容範囲が広く、ボールの挙動に無理が出にくいため、投球時の安心感が大きく増えています。

今回のインテル2は前作やツアープレミアム 8 で評価されてきた“クセの少なさ”や“投げやすさ”といった特性も健在で、それらの長所を残しつつ、レーンコンディション後半での変化への対応力や、ラインの再現性をより高めた「ツアー系万能モデル」としての側面を強化。

特に1日の終盤、コンディションが読みづらくなった場面でも、自信を持って立ち位置を決められる操作性の高さが光ります。

特記事項

インテル用に変更されたプレミアムコアに、実績のあるNano-Bondカバーをまとった今作は、ツアープレミアムシリーズの中でも、新たな定番として多くのプレイヤーの武器になる——そう確信できる1球です。